

第70回山梨県環境保全審議会 会議録

1 日 時 令和7年3月25日（火）午後3時～午後4時

2 場 所 山梨県立図書館2階「多目的ホール」

3 出席者 （委員）（敬称略）青木進、足達郁也、石井信行、風間ふたば、勝岡伸圭、亀山倫世、河内正子、窪田清、窪田茂、後藤聡、小林富一郎、小林拓、小宮山稔、佐藤繁則、佐藤若夫、島崎洋一、武田哲明、棚本佳秀、長池伸子、福地龍郎、保坂多枝子、村山力、山本紘治、深澤諒士（計24名）

4 傍聴者等の数 1人（記者含む）

5 次 第

- （1）開会
- （2）あいさつ
- （3）議事
- （4）閉会

6 会議に付した事案の議題・会議結果

1 審議事項（1）

「山梨県プラスチックごみ等発生抑制計画（案）について」

計画（案）のとおり了承

審議事項（2）

「令和7年度公共用水域及び地下水の水質測定計画（案）について」

計画（案）のとおり了承

審議事項（3）

「温泉法に基づく許可（動力の装置）について」

温泉部会の審議結果のとおり「許可相当」

2 報告事項（1）

「山梨県地球温暖化対策実行計画の実施状況について」

事務局から報告

7 議事の概要

環境整備課長	◆ 審議事項（１）資料により、環境整備課長から説明 ◆ （意見なく審議事項（１）終了）
大気水質保全課長	◆ 審議事項（２）資料により、大気水質保全課長から説明 ◆
委 員	○ 測定結果の公表の仕方について、全部 PDF で出てきているが、地図上で簡易に見ることができるシステムは今のところないのか。
大気水質保全課長	○ 現時点ではそこまで進化した結果の公表になっていない。
委 員	○ 一般の人が見ようとする結構大変かと思う。知りたい情報がどこにあるのか分かりにくい。折角一生懸命調べるのだから、県民の方が情報をえられるようにした方が良いかと思う。
大気水質保全課長	○ 県のGISシステムの活用が想定される。おっしゃる通り、GISと連携が図れるようなシステム構築について、来年度以降検討して参りたい。
会 長	○ 地図上の表示というのはとても良いと思う。是非ご検討いただきたい。本議題は昨年から大きく変更がないというお話と、回数・制度を高めてもそれ程多く出てくるということではない場合については、あの年間の回数が減っているところがあるという説明もあったが、環境の状況はこれまでのデータと合わせて把握できるかと思う。 （審議事項（２）終了）
部 会 長	◆ 審議事項（３）資料により、温泉部会長から説明 ◆
大気水質保全課長	◆ 審議事項（３）資料により、大気水質保全課長から説明 ◆
委 員	○ 議案１の申請地点に近いが、影響がないという審議をされたということだが、影響がないとする根拠はどこにあるのか。
部 会 長	○ 懸念はあったが、掘削中は注意して掘ったため問題がなかったと、そしてシールはしっかりやっているということで、ボーリングの成果としては問題ないという位置づけで考えている。
委 員	○ 確認だが、試しのボーリング（試削）をした時に何か影響が出ていないか。水位に影響はないか。
部 会 長	○ 慎重に掘ったため掘削中に水位の変化、水が入ってくるようなことはなかったと、現地視察で実際のボーリング調査の業者から聞いた。
委 員	○ 水位の変動はなかったということでよろしいか。

部 会 長	○ 変動はなかった。(審議事項(3)終了)
部 会 長	◆ 報告事項(1)資料により、地球温暖化対策部会長から説明 ◆
環境・エネルギー政策課長	◆ 報告事項(1)資料により、環境・エネルギー政策課長が説明 ◆
委 員	○ これから先どうしていくのかを個人的に考えているが、AIを様々な場所で導入していて、県庁でも学校現場でも入れている。ここで話題になるのは、AIを動かすため、データを動かすための電力消費がとても多いが、ここの数字には乗ってこない。将来的には入れていかないといけないと思う。そういったことは話題に上がったことがあるのか、又はどこかで指針を検討している情報があるのか、あれば教えてもらいたい。
環境・エネルギー政策課長	○ 現時点で委員がおっしゃっている AI・半導体・保護電力が見込まれるということは、あのまあニュースで一般的に言われていることですが、直接的にこの分野で賄う取り組みはない。県としても、そういったものは増えていく中でできることを頑張っていきたい。
委 員	○ 県内で消費されるものはおそらく増えていくが、データの先で消費されるものも、我々の県内の活動と関係してくるようなところで、将来そういった情報があればこういう場で紹介していただきたい。
委 員	○ 森林の吸収率が減少していることは棒グラフから分かるが、宅地等を開発する際に、県でも網を被せる対策をしていると思うが、これからの開発について、守っていく部分をどのように検討しているのか聞きたい。
会 長	○ ご質問は、例えば資料1の1頁の図表2のグラフについて、一番下の△印に森林吸収分と書いてあるが少しずつ減っているのではないかと、その部分についてご説明いただきたいということでしょうか。
委 員	○ はい。
環境・エネルギー政策課長	○ 確かに2013年度から減ってきている。林政では伐採はかりしているということではなくて、伐採に伴う分を植栽しているため、今後の吸収減をしっかりと見ながら、来年度以降は林政部と一つの部になるため、同じ部の中で将来どうなっていくのか検討できればと思う。
部 会 長	○ 森林の吸収減については、温暖化対策部会で一年以上前から議題は上がっており、吸収率は少し下がってきている。これは県の森林をどのように計画するのかと

委員 会長 委員 環境・エネルギー政策課長	連動して変わるため、現在、ガスでは少し外にある範囲で、なかなか上手く連動はしなかった。 ○ どうしても吸収減が下がると達成が難しくなってくることは、既に議論が進んでいる。情報を県の中で共有して、5年10年どういう計画を進めていくのかについては思案されているところ。 ○ 一方で、山梨県は創エネについては非常に弱いところで、東京電力から買っているため、いつも気になるのは電力排出係数に大きく依存して、県の結果が決まることも否めないということ。社会的な情勢であるため、県の状況とは関係のないところで決まってしまう。こういったことも先読みしながら、なんとか2030年の目標を達成しようということで、部会では話している。 ○ 山中湖に住んでいるが、周りは樹木がなくなるぐらい広い面積の樹木が減っている。湖についても、ここ十年程で温度が三度程上がっている。これからもっと温暖化が進むため、山梨県は自然豊かな県だが、開発の部分も少し考えていただきたい。 ○ 今のお話は、武田委員は森林の間伐、伐採等の影響が大きいという話だと思うが、河内委員は土地の開発で広い面積がなくなっているという話。 ○ 「ナラ枯れ」という問題があり、私たちの周りには水を貯めるナラの木が沢山あったが、虫が入って枯れてしまい、富士山の周りではかなり伐採している。そこに植林をしているにはしているが、自然に落ちてくるナラの実の芽が出てくるまで時間がかかる。開発で許可をする際、あまり広い面積の時には、多少樹木を残していただければありがたい。 ○ 森林法の関係での開発について、ご心配されているかと思う。確かに山梨県は森林も多く、保護する部分ということで林政部局がある。他の部局だから知らないということは今後はなく、環境部門、今ご心配されている林政部門一体となって、山梨の環境を守っていくような形で考えていきたい。 (報告事項(1)終了、会議終了)
---	--